



友愛

題字 前淵 幸信



〔理念〕 自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい

社会福祉法人 友愛会

亀岡友愛園

〒621-0251 京都府亀岡市本梅町平松ナベ倉 12 番地
TEL : 0771-26-2115 (代) FAX : 0771-26-3557

《特別養護老人ホーム》	《デイサービスセンター》	《居宅介護支援事業所》	《ホームヘルプステーション》
TEL : 0771-26-2115	TEL : 0771-26-5432	TEL : 0771-26-0039	TEL : 0771-26-0038
FAX : 0771-26-3557	FAX : 0771-26-3557	FAX : 0771-26-5929	FAX : 0771-26-3557

《亀岡市西部地域包括支援センター》

TEL : 0771-26-0056
FAX : 0771-26-5929

《高齢者あんしんサポートハウス》

京都府亀岡市本梅町平松原谷 24-2
TEL : 0771-26-2310 FAX : 0771-26-0880

地域密着型事業 すずらん

〒621-0806 京都府亀岡市余部町中条 17 番地
グループホーム 小規模多機能ホーム TEL・FAX 0771-20-2840

社会福祉法人友愛会 後援会 振込口座 01030-8-42554 <http://www.yuaien.or.jp>



新年あけまして おめでとうございます

(福)友愛会 理事長 前 洸 功

今年の十二月で、当法人は五十周年を迎えることができます。これもひとえに地域の方々をはじめ多くの皆様のご理解とご協力の賜物であります。心よりお礼と感謝を申し上げます。

軽費老人ホーム開園

五十年前に軽費老人ホーム亀岡友愛園の開園が当法人事業の始まりであります。しかしその開園に至るまでは、苦労の連続であったと初代理事長より聞いています。

施設を建設する土地がない、建設する資金もない。そのような中、キリスト教の信者の皆さんをはじめ地域の方々の理解と協力が少しずつ増えてきて、ご寄付いただいた物品の販売を通して建設資金の足しにし、その販売を通して支援の輪が広がり、土地を購入するための借入れの担保を申し出ていただく方が現れてきました。しかし、建設場所が二転三転。ようやく建設場所が決まり補助金をつけていただき着工を迎えることができました。老人ホーム建設の構想開始から、四年の時を重ねて、待ちに待った開園となりました。

特養が欲しい



当時の軽費老人ホームにお住いの皆さんは、「自身で身の回りのことができる方々。開園より数年が過ぎ、年齢を重ねられ、足腰が弱くなつていかれる方、ご病気で入院され、帰ってこられない方が出てきました。

「私もいずれ介護が必要になるかもしれないその時に、今住んでいる軽費老人ホームの隣に介護をしてもらえる特別養護老人ホームがあれば安心できるね」ご利用者からの声が特別養護老人ホーム建設の取り組みへと発展しました。その声を実現したのは軽費老人ホーム開園より二十五年後の事でした。

支え合える関係を

『自分を愛するよつこに、あなたの隣人を愛せよ』キリスト教の聖書にある言葉です。そのまま、当法人の経営理念としてしています。この理念を職員に説明する時に『自分の幸せを求めようとに他の人の幸せも考えましよう』『そして』ご利用者の幸せを考えましよう』と伝えていきます。ご利用者の笑顔で職員も笑顔になります。職員も幸せにしてもらえます。職員もご利用者に支えていただいている瞬間です。お互いの幸せを願う支え合える関係をご利用者と、ご家族と、地域の皆様と、そして同僚と作り続けられる法人でありたいと考えています。



支え育ちあう輪
友愛会のロゴ

『笑顔が付いてくる』

楽しいひと時



あんしんサポートハウス

介護員 渡邊 明子

三十分間という短い時間ですが、体操を通してサポートハウスでご利用者と一緒に、楽しいひと時を過ごしています。

私が、体操を始めたきっかけを少しお話ししたいと思います。病気をしたことで、食事を摂ることが難しく、歩くことがスムーズにできず、辛い日々を過ごしていた時期がありました。明日の不安や苦悶を余裕も持たず、家に閉じこもり、一人で悶々とする日々を送っていたこともありました。

そんな生活を送っていた時に、新聞の折り込みチラシの中に体

操のチラシを見つけました。動機は何であれ、いいタイミングで体操に出会えたと思っています。

体操に参加する中で、外に出る機会が増え、仲間や友人ができ、毎日の生活に楽しみが生まれてきました。この頃から少しずつ、食欲・活力も徐々に出てきたように思います。

体操繋がりで、サポートハウスで働かせて頂くことになり、仕事の一環として体操に関わらせて頂いております。

皆さんの体操を拝見し、元氣と勇氣を頂いております。お一人お一人の表情も違えば動きも

特集 我がこと

違いますが、一生懸命に取り組んでおられることは、様子からも窺われます。間違っていない指摘はされず笑って終わりの…。目と目があれば笑顔が返事…。素敵な一場面です。

体操を続けることで、「曲のテンポが速いのでは?」「聞こえない」「楽しかった」「今日の脳トシは難しいなあ」などのご意見やご感想を頂くことも増え、嬉しく思っています。また、励みにもなっています。

「コロナ禍で密は禁止、大きな声を出すことも禁止等、体操にも影響が出ていますが、体操をすることで、介護予防になります。また、ふれあい室が皆さんに会える所だと思ってくれて頂ければ嬉しいです。

心身の健康とともに、私が大切にしていることは「笑顔」です。これからも、笑顔忘れず、みなさんと一緒に笑い合い、一緒に楽しい場所づくりが出来たらと思っています。



たくさんのご利用者に参加くださいます。



特集 我がこと

『看取り介護を通して』



すずらん

所長 小早川 広恵

平成十九年四月開設して早十四年という月日が経ちました。開設当初は、法人内にグループホームがないので、他の事業所へ見学やお話しを聞かせてもらったりして情報収集を行いました。小規模多機能型居宅介護は、平成十八年介護保険改正で出た事業で、見学をするにも事業所が少なくほぼ手探りの状況で、亀岡市初の小規模多機能型居宅介護事業所として設立しました。当初は、グループホーム、小規模多機能型居宅介護の経験する職員はいません。所长という管理責任者をするのが初めて、介護支援専門員の職員もケアマネ業務するのが初めてで、すべてが初めて……。職員の大半が、専

門学校卒や大学卒の現場で働くのが初めてという職員もいました。その中で、介護保険法、消防法、労基法などを学び、人材確保や人材育成、ご利用者、ご家族の対応、請求業務や関連業者への対応など様々な業務に追われる日々となりました。開設時、グループホームの入所された男性のご利用者が、「ここがわしの家や」と、執筆作業をしながら、楽しく過ごされていきました。徐々に体調が思わしくなく入院。退院した時、嬉しそうに「たたいま」と言っ

その話を聞いて職員の内情を確認したところ、「家族でさえも死を見たことがない」「そんな事業所だと思っていなかった」「看護師がいつもいてくれるのであればいいけど、そうでなければ無理です」と、職員から否定的な言動が返ってきました。これでは、看取り介護はできないと判断しました。

開設五年が経過した頃、進行性の甲状腺がん入院をされ、ご家族から相談がありました。「少しでも自宅で観たほうがいいのか。どうしたらいいのだろうか」と、突然の癌宣告に不安な様子でした。この頃は、職員たちも成長し、介護福祉士の国家資格を取得して頑張ってくれていま



た。再度、看取りについて職員に尋ねると、「ご本人、ご家族が望んでいるのであれば頑張ります」「不安ですけどグループホームで看取りを希望されるのであれば、ご家族の協力の下で」という前向きな言葉に変わり、この調子なら看取り介護が出来ること確信をしました。結局、そのご利用者は進行が早く三週間ほどの入院で死亡されました。

グループホームから特養に移られて、環境の変化で認知症が進行し寝たきりになられ、ご家族が後悔されたお話しや、治療目的で入院をしたが、終末期ケアと言われそのまま復帰には至らず、数ヶ月が経過して自宅での看取りを決意されたケースなど様々なお話しを聞き、ご家族も随分悩まれた結果だと思えます。その中で、グループホームで場所提供を行

特集

我がこと



い、ご本人、ご家族の意向に沿えるケアが出来るのであれば、ご本人やご家族の選択肢も広がるのではないかと思います。

開設十一年が経過し、開設時に入所された方が、終末期を迎えようとした時、「ご家族から」「すずらん」で一年間もお世話になり、母にとってここが自宅です。私たちより、良くついでにさっさといる皆さんの中で、母が死ぬことが出来たら本当にうれしく思います。どうかよろしく願います。「と、私たちは、本当の家族ではないが、ご利用者の人生の中で十一年間もケアしているのは事実であり、「ご利用者の現状を知っているのは、ご家族よりもすずらんの職

員である。人生最期をどこで迎えるのか。どのようなケアで迎えるのか。ご家族ともよく話し合いました。」病院で一人、知らない場所で天井ばかり見て、知らない看護師さんに声をかけられて不安になるよりも、知っている職員さん、知っている顔や声で、いつも寝ている場所で苦しむことなく逝くことが出来たら母も本望です」

職員の内気持ちもくみ取りながら、主治医の往診と連携し、初めてすずらんの看取り介護をすることになりました。他府県（近畿）に住む娘さん夫婦もよく来て下さり、懐かしい思い出話をしながら、一緒に見守り続けました。最期、苦しむことなく眠るように息を引き取られました。



すずらんの看取り介護が出来たこと、ご本人、ご家族、そして職員と主治医の連携により出来る事であり、決してすべての方を受け入れるわけではありませぬ。同じ気持ちで、私たちにも出来ることがあるのなら

協力をさせて頂こうと思っております。現時点で、グループホームでの看取り介護は4例目となりました。小規模多機能ホーム（在宅死）は、二例目を経験させていただきました。日々勉強をさせて頂いております。

現在ご利用されている方、今後ご利用される方とこれからの人生に私たちの関わりがどうあるべきか共に協議しながらケアに努めていきたいと思っております。

『ヘルパーとして大切にしている事』



ホームヘルプステーション

介護員 今西 まゆみ

私がヘルパーとして大切にしている事は接遇です。

ご利用者と関わる時は笑顔であいさつをしてから、目線を合わせます。そしてゆっくると話をしながら寄り添えるよう心がけています。

緊張してうまく話せない時もあります。笑顔で言葉使いに気を付けて、ご利用者が少しでも長く、ご自宅で生活を続けられるように支援しています。

これからも接遇を大切にしてい、ヘルパーの仕事を続けていきたいと思っております。

特集 我がこと

『支えるをわける』



特別養護老人ホーム

主任生活相談員 川村 健 司

私は亀岡友愛園で生活相談員をしています。

入所申し込み時のお話ですが、在宅介護に行き話まり助けを求めてこられるご家族様や、老人保健施設から退所を迫られて次の生活の場を求めて来られるご家族様、母親が亡くなり父親が失踪した為に、認知症の祖母の介護をせざるを得なくなったお孫様、それぞれ一人一人違った生活の背景を抱え特別養護老人ホームに相談に来られます。

入所申し込み時のお話ですが、在宅介護に行き話まり助けを求めてこられるご家族様や、老人保健施設から退所を迫られて次の生活の場を求めて来られるご家族様、母親が亡くなり父親が失踪した為に、認知症の祖母の介護をせざるを得なくなったお孫様、それぞれ一人一人違った生活の背景を抱え特別養護老人ホームに相談に来られます。

いが浮かんできます。

しかし、居室は空いていない事が多く、事情を聴くだけ聴いて現在空床が無いことをお伝えしないとダメです。又、特養に入所するという事は、人生の中で終末期に近づいている事を説明します。

入所者の多くは、七〇・八〇・九〇歳と持病や認知症の進行等により、要介護度三以上の方がおおむね占めており、生活の中でのちょっとしたむせ込みや体調の変化で肺炎を患ったり、骨がもろく骨折して寝たきりになりやすいお身体をされています。亀岡友愛園は特養です。二四時間

体制で介護はできませんが、やはり病院ではないため専門的な治療や点滴、酸素吸入の管理や夜間帯での吸引はできません。

入所申し込みの際には、そのような施設である事、加齢や状態変化により食事が口から摂れなくなったらどうするのか？又、どのような最期を迎えたいのか？をお聞きします。「ご家族様は覚悟しています」「まだそこまで考えていません」等、反応も様々です。結局、入所申し込みをされないご家族様もおられます。私たちは、入所されるご利用者、そ



のご家族様と長くお付き合いをさせて頂く第一歩として考えていますので、少しでも亀岡友愛園での生活を理解して頂いた上で入所して頂きたいと考えています。

入所申し込みの最後に、「他の施設も申し込んで下さい。先に空いた所に入った方がいいです。」とお伝えすることが、今の現状を少しでも解決する最善策だと思っています。又、介護保険制度や市役所での手続きの説明も同時に行っています。

入所申し込み時は、ご家族様から様々なお話を聴くことが多いですが、ご家族様が抱えている思いを少しでも話して頂き、「共感」「受容」する事で、そのご家族の支えになれば良いと思っています。

昨年度からコロナ禍において他施設でもクラスターが発生しています。亀岡友愛園においても、入所者がコロナウィルス感染しないよう感染予防対策に力を入れています。その一環で非接触面会を考え、ラインアップ

特集

我がこと

じでの面会、タブレットを使用したオンライン面会、直接ご利用者と顔を合わせて行う窓越し面会を準備しました。始めはラインでの面会も多かったですが、やはり直接ご本人と会って話せる窓越し面会が多くなりました。

窓越しでの面会の様子を知ると、普段施設の職員には見せない表情や話される内容が自然とお父さんやお母さんになっていきます。それを見るだけでも感動します。

私たちは介護者としてご利用者の生活支援をしています。やはり一番の介護者はご家族様であり、ご家族様はご利用者の「心」を支えてくれるのだと感じました。

しかし中には認知症の進行により、ご利用者がご家族様を見ても反応が薄い時や、言葉が出ない時等もあります。施設内では職員が認知症ご利用者の手に触れ、近い距離で話かける事で笑って下さる事が多いです。感染予防と云え、ご家族様には面会

の予約を取って頂き、遠くの山奥まで来てもらっている中、寂しそうな様子で帰って行かれる姿を見ると本当にコロナウイルスが恨めしく思います。
「コロナ禍の状況を見ながらですが、相談員として皆様の笑顔が少しでも溢れ、亀岡友愛園に来てよかったです」と思って頂けるよう、ご家族に支えられるご利用者・ご利用者に支えられるご家族のお手伝いができるようなこれからも頑張って支援していきたいです。



『ワタクジゴト』

デイサービス

介護員 水上 里美



一年前、私の母の十三回忌のために訪れたお坊さんに、お釈迦様の教えについて次のようなお話を聞きました。仏教の中で言われる「苦」とは、「思い通りにならないこと」という意味である。だから、「思い通りにしよう」とするのをやめ、「人を大切にしよう」とすることが大事である。私はこの時のお話を身に染みて今、感じています。

今年で私の父は八十七歳となり、今は特養でお世話になっています。父が家で生活していた時は、転倒して顔を打って青あざが出来る。利

き腕の左腕を強打する、左肩の骨折など、転倒による事故がよくありました。今まで出来ていたはずの事が出来なくなっていく。歯がゆさが増していくばかりでした。記憶も曖昧で、認知症状も見られるようになってきました。そんな中で、色々な人に助けていただき、その人たちのお陰で特養に入れていただく事が出来ました。家にいたら今頃どうなっていたらなかつたかと思うところがあります。この特養のありがたさを凄く感謝します。利用している立場としては、「本当にこれで良かったのかな

特集

我がこと

『両親のこと』



居宅介護支援事業所

ケアマネジャー 前 泷 豊

あ「とが」「自分がした事は正しかったのか?」「色々考えすぎてしまいます。皆さん、私と同じだと思います。私は今、「」で働かせていただいております。」「利用者さんを自分の両親のよう」に思っています。私が経験していることは、誰もが通

る道だと思えますので、残された人生における生活の質を向上させる事が、私たちの役割と考えます。だから、これからも私は笑顔で接し、ご利用者さんに寄り添える介護をしていきたいと思えます。

私はケアマネジャーとして日々「利用者に関わらせて頂いています。その中でいつも感じることは「本人を支える」「家族、地域の皆様、サービス事業者、皆さんの支えがあってこそこの介護であると感じて

います。私事ですが、私の父も介護サービスをうけております。父は今年で九〇歳。これまでに危ない時は数知れず、そのたびに「びっくすする。よいな回復力で今に至っています。一番驚いたのはもう十二、十三年は

ども前になるでしょうか。父にがんが見つかったことです。がんの進行具合も年齢的にも治療は難しい状況にあるのが素人でもわかる状況でした。セカンドオピニオンもお願いしましたが、最初の診断結果と全く同じ結果となり、それからは治療が出来るかどうか?不安な日々だったのですが、最後の確定診断を受けた際に「びっくすする」ようなことが起りました。がんが全く無くなって消えていたそうです。私は仕事で付き添いは出来なかったのですが、付き添っていた兄から連絡を受けたときはさすがに聞き直しました。当時の主治医もびっくりだったそうです。

父の頑張りもあるのですが、周囲の皆様の力添えがあったからこそ感謝の日々です。父を知ってもらっている方からは「お父さん大丈夫?このころ見ないけれど?元気にされている?」「と声をかけてもらえ、私も多く、私自身、父のことを言っても「えっ?」「あ、それがいいいいわい

ます。元気です。」「とお礼を言わせてもらっています。

ルーキーです!



高齢者あんしんサポートハウス
ナイトスタッフ 西田 康雄

春からナイトスタッフ デイサービスドライバーとして人生の出会いを楽しんでいます。日々勉強させて頂き、ご利用者の方々の生き様をリスペクトしながら頑張っています。趣味はゴルフ・テニス・ラテン音楽・スペイン語

よろしくお願ひします!

特集 **我がこと**



「このように父は高齢で、かつ介護も必要な状況です。しかし介護を家族がすべて担うのは、今の時代生活や仕事がありますし難しいですが、現在安心した生活がおくれるのは、介護保険でサービスを受けられているからというのも大きなことだと思います。父自身が移動するための福祉用具のレンタルや、ヘルパーによる支援等々今の父の生活には欠かせないものです。」

周のから見ると何気ないものだけれど、とても大切なものはその方々を思う気持ちだとあらためて思います。つい先日も仕事先で私の母を知っている人があり、その方から「前淵さんのお母さん知っています。私が小学生の時に（前淵さんのお母さん）からとても優しい言葉をかけてもらったことがあります。今でもそれは私自身記憶に残っています。」と嬉しい言葉ももらいました。もう四〇年ほど前の出来事を憶えてもらっていたこと、母が亡くなって四〇年たったのに覚えてもらっている方があることにびっくりするとも、母の残した言葉が今もその方の力になっていっている嬉しさを感じました。

まだ少しあるのですが、私も母が亡くなった年齢に近くなってきました。今の私に母と同じような優しい言葉が周りの皆さんにかけられているかどうかわかりませんがほんの少しでもその方の支えになればと日々感じております。

**女性スタッフ
多数活躍中!**



特別養護老人ホーム勤務

介護員 正職員

マイカー
通勤OK

就職お祝い金制度あり

※但し、直接ご応募又はハローワークよりご応募頂いた方に限る

勤務地/**亀岡友愛園** (下記住所)

20.6万円～27.1万円

※月給
 (夜勤手当、処遇改善手当を含む)
 他に
 扶養手当 ～25,000円
 住宅手当 ～23,000円別途支給

- 勤務
- ① 7:00～16:00
 - ② 11:00～20:00
 - ③ 13:00～22:00
 - ④ 17:30～ 9:30
- ※9時間シフト労働日もあります

【待遇】昇給有、賞与有(年2回)、社会保険完備
 通勤手当、年末年始出勤手当、時間外手当
 【応募】まずはお気軽にお電話下さい。(担当/採用係)

●特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス等運営

社会福祉法人 友愛会

京都府亀岡市本梅町平松ナベ倉12 ☎0771-26-2115

**60才以上でも経験者の方は
応募可能です** ※定年66才

<http://www.yuaien.or.jp>



特集

我がこと

『住み慣れた地域で

自分らしく生きる』



亀岡市西部地域包括支援センター

看護師 新田 節子

地域包括支援センターは、みなさんが住み慣れた地域でいつまでも安心して生活できるように、さまざまな面で支援をする「よろず相談窓口」です。

亀岡市は平成二十八年から三年間にわたって自立した高齢者に対して「高齢期の幸福度調査」を実施しました。私が訪問調査で出会った幸福度（精神的健康）の高い八〇歳の女性を紹介します。

この女性の一日の過ごし方は、毎朝決まった時間に起床され、食事支度を整え、新聞を読み、畑で野菜を育てていました。ご主人様を亡くし一人暮らしになってからも隣近所の

方々から声かけをしてもらいながら、料理教室・編み物・3B体操に参加しておられます。楽しみは「季節毎に旬の野菜を食べ、おいしい店を見つけて友人達と出かけること」だと話されました。

両膝は変形性膝関節症になり手術をして正座が出来ないけれど、段差の多い自宅を工夫しながら移動されています。毎日欠かさず雨の日以外は自宅周辺の農道を四十分ほど歩くことを日課にされ、買い物は乗り慣れた軽トラックを運転し市内まで出かけられます。

最近では少し曲がってきた腰を伸ばし休憩しながら、二本のポールを両手に歩かれています。住み慣れた

地域で自分らしく前向きに生きている姿が印象的でした。

高齢者と言っても七〇歳と九〇歳とでは様々な違いがあります。

同じ年齢でも、健康状態、経済的環境、経験やキャリア、価値観が様々です。実態調査を行なってみて、高齢期を迎えた皆さんは、豊かで自由な時間を、新たなライフスタイルに変え経験と知識を生かしておられました。

今の自分に何ができるのか、あるいは今だからできることは何か、そしてどのように楽しむのか等々新たなチャレンジをすれば生きがいに変わっていきます。高齢者の実態が多様であるにもかかわらず、ネガティブに捉えがちでした。訪問調査をしたことでより理解できました。人は誰でも老化します。筋肉などの運動機能が低下し、尿漏れは誰にでもあり得ることです。

介護予防活動として、私たちが地域に出向き、フレイル状態（加齢により心身が老い衰えた状態）に陥ることを防ぐための方法について、いつでもどこでもできる内容をお伝えします。お気軽に地域包括支援センターに相談してください。

亀岡市

『介護予防・日常生活支援総合事業』

平成28年～「高齢期の幸福度調査」から

自分の身近に、自分の自由になる時間の中で行うことができる活動ができれば充実して、生きがいにつながると示されています。更には、年齢が高くなるにつれ身体の健康度は低下するが、他の人とのつながりや感謝の気持ちが高まり、年齢が高くなるにつれて幸福感が高い結果がでています。

—詳しい調査内容を知りたい方は『亀岡市 幸福度調査』で検索





『ご利用者様に 教えていただいた事』



ホームヘルプステーション
サービス提供責任者
堀越 千鶴子

ある日訪問させていただき、サービス終了間際のコミュニケーション中、「教えて欲しいんだけど。『ハイ』と返事するのは流行り（はやり）ですか？」とご利用者様から尋ねられました。「私も『ハイ』って言っていますか？」とお尋ねすると、色々な方が何かお願いすると『ハイ』と返事されます。ヘルパーさんが帰られる時も「ありがと。」「と言いつつ『ハイ』。電話を切る時も『ハイ』と答えられるんだ。これは流行りなのかな」と思って聞いてみたんだ。とお

っしゃいました。『ハイ』じゃなくて『ハイ』だと思っただが、何かおかしくないですか？と言われる。私はそれまで、自分が話している時も、他の方が話されている時も、話し方や言葉使いに対して、あまり気にしたことがありませんでした。毎年接遇に関して研修を受けている時も、敬語を使ってご利用者様に接する事が出来ていると思っていました。その事をお聞きして、お部屋から返事する時に「ありがと。」「お

ルーキーです！

すずらん
介護員
北尾 郁也



9月から正職員となりました、北尾郁也と申します。以前は大規模施設にいましたが、利用者様と深く関わりたい思いが強くなり一念発起転職して参りました。

利用者様に対して、敬意を払い、尊ぶ事をモットーとし、精進して参ります。至らぬ点も多々あるかと存じますが、ご指導・ご鞭撻のほど何卒、よろしく願い致します。

よろしくお願ひします！

利用者様も「ありがと。」「おっしやられ、私は今まで『ハイ』と返事している事に始めて気づきました。自分が言っているんだと恥ずかしくなりました。六十年間気分がずに使っていた事を反省し、ご利用者様には不愉快な想いをさせてしまった事に、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

その日から、自分の言葉使いを意識するようになり、どうしたら『ハイ』の癖が直せるのか考え、今は返事をする前に一呼吸置いてから『ハイ』と返事するようになっています。一呼吸置くことも結構難しいですが、教えて下さったご利用者様に感謝し、『ハイ』と笑顔でお答えしたいと思いま

友愛園 宝箱

『大切なもの』



デイサービス

看護スタッフ

白波瀬 智美

私が出勤してつばさのバスを利用者さんの乗った車が玄関に到着していきます。職員が迎えに出て「おはようございます」「今日もよろしく願っています」の一言から一日の始まりです。私は短時間パートなので、利用者さんと接する時間は短いです。でも常にデイホールに居て、朝のあいさつをした声のトーンや顔の表情などから、元気がない、寝不足、体調悪いのかな、髪切ったかな、些細な変化を見落とさないよう、気を付け、目配り・心配り・耳配りなどに毎日励んでいます。

私の宝箱と一言で言っても、幼少のころ、一〇歳青春のころ、年を重ね六〇歳を前にした今とは違って、年齢と共に変わってきます。今は家族（両親、夫、子供、孫）が宝物かな…

一本の木は、枝がのび、葉が増え



て大きく太く成長していく姿をみて、いつまでも繋がっていく大切な命、絆だと思っています。デイの利用者さんは、私の両親と同じ年代の方がたくさんいらっしゃいます。昔、若かった頃の衣食住など、貧しかった苦労話を聞いて、今は便利な世の中、何かにつけ豊かな時代だと思っています。でも、昔の人

や言葉は、今でも役に立ち、受け継がれている事もたくさんあります。だから、私もご利用者さんから昔の話を聞き、その人の生き方や言葉、知恵などをたくさん学び、これから生きて行くうえでの私の宝箱のひとつとし、次の世代の子供たちや孫たちに繋がっていければいいなと思っています。

ルーキーです!

特別養護老人ホーム 介護員 長野 真紀



4月から1階でお世話になってます、長野です。ご利用様が少しでも楽しい1日だったな。ここにいると安心するな。と思っていたように、優しく、楽しく笑顔の絶えないよう明るく生活が送れるよう日々介助させていただけたらと思っています。

よろしくお願ひします!



5年が経ちました



あんしんサポートハウス

介護員 坂本 多美子

早いもので、ここ京都亀岡に来て五年目になります。

最初は、ここで、大丈夫かなと思っておりましたが、住めば都です…。

介護の仕事につき四年が経ちました。

まだまだ慣れないことが多くあります。そんな時は、先輩方が暖かく言葉をかけて下さり、またご利用者の笑顔を見るとほっとします。

家の庭には、小さい畑があり、夏はトマト・きゅうり・なす・伏見唐辛子を育てております。

今年は、スイカに挑戦しました。前半は、お天気に恵まれ順調に育っていききましたが、後半は、

雨が多くて甘くならず、種が多くて甘みが無いスイカになってしまいました。ですが、野菜を育てることは楽しく、毎日、朝起きると、野菜の様子を見るのが日課になりました。

施設でも、今年から、畑づくりの担当になりました。ご利用者と共に、土づくりから苗植えまで、前任者よりアドバイスを受けながら、ご利用者ができない所を支援し、沢山の野菜を収穫することができました。

収穫した野菜は、毎日の食卓に並びます。玄関先には、季節に合わせて、花を植えます。水やりは、ご利用者をお願いしました。自宅が近いので、気になると



見に行きます。

東京生まれの、東京育ちの私です。亀岡は自然に恵まれ、老後の生活には最適な場所です。

そして、地域の方のお役に立てる様に、施設では、ご利用者の方が安心して生活ができるように支援していきたいと思えます。

今は、世の中がコロナウイルスで大変な時期を迎えております。毎日、感染者の数が増加しております。元の生活に近づけることを期待しながら、頑張っ



いきたいと思います。



プランター作りや
野菜作りを
ご利用者と一緒
に行っています。

友愛園 宝箱

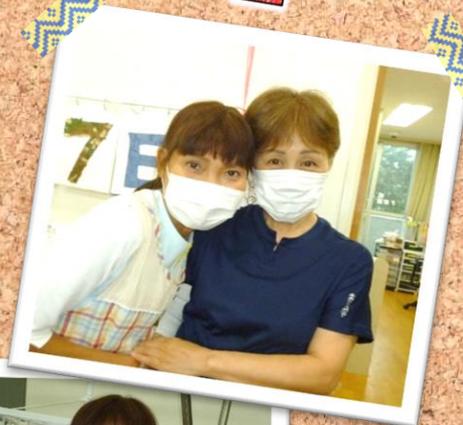
友愛園特養館三階従来型特養では正職さんパートさん含め二十三名の職員さんが働いています。

その二十三名の職員は「ご利用者様、三十一名（SOSJ利用者一名）の日常生活をお手伝いさせていただきます。」

「二十三名」とは言っても私たちの仕事はシフト制となっていて、その中で常時七名の職員が、ご利用者様の食事、排泄、入浴などを担っています。

「介護職」とはどのようなイメージをお持ちでしょうか？汚い、きつい、臭いなどのイメージがあるかと思いますが、そのようなイメージを払拭させてしまおうという楽しい職場となっています。七名の男性職員も頑張っていますが、平均年齢をぐっと上げてしまつた女性職員が何より一番元気に働いています……！

従来型特養を支えてくれている「癒シスターズ」



そんな女性職員さん達は友愛園で長く勤めておられます。なぜ今も勤められているのかをテーマにお手紙を書いてもらっていました。



上の写真を見てくださったように、やうせいはめいませぬ……！
「機関紙」に載せる写真撮りますよ〜」というカメフラを回けただけで、
はい……この笑顔です。
すいじですみね〜。二気をもらいます。

友愛園
宝 箱

私が介護の仕事するきっかけとなったのは祖母がお世話になっていた施設に面会に行った時です。その介護員さんはとても祖母に優しく接してくれ私はいつも感動と感謝の気持ちでいっぱいでした。「わたしも人に感動を与えられる仕事がしたい！」と言う気持ちになり友愛園で働く事に決めました。体力的な面でも不安でいっぱいでしたが、周りのスタッフの方に助けってもらいながら働く事が出来ています。

塩見和江



私が介護の仕事をしたのが、30代前半の頃で、手に職という思いが動機でした。でも都合により、断念することになり、間を経て、自分も50代後半家族の介護を通じて改めて、介護の仕事の大切さを感じ、その家族【親】の介護を終了と共に、再度仕事をさせて頂いております。介護職はしんどいというイメージがありますが、正直そんな事は無いとは言えないですが、利用者様と毎日お世話する中で考えさせる事や、学ぶ事など色々あったり笑いも絶えません。これからの自分の為の勉強になるのではと思います。仕事の中では「次はこうすれば良いのでは」とかプラスに考えると仕事も楽しく出来ると感じます。何より仕事をする中で、職場が和気あいあいと楽しく毎日過ごせることが一番の幸せ、今の職場に恵まれ良かったと感じております。これからもがんばれます。

岸谷富美代



介護の経験はなかったのですが始めはパートタイマーとして働き始めました。

職員の人は若い人が多く、みんな優しく親切でした。

それから数年が経った頃、パートの仲間も国家試験を受ける事になりました。

仕事の後、みんなで勉強会に参加したりして結構楽しかったです。

そんな中時間にも余裕ができてきて、フルタイムで働く事になりました。

始めは自分には無理だと思っていたのですが、何とか今まで続けることが出来ました。

これもひとえに職場環境や一緒に働いているみんなのおかげだと思います。

最初は少し家族の自立の助けになればと始めたパートの仕事でしたが、今では自分自身が自立できたように思います。

これは全く予期せぬことだったので、友愛園で働きだしたことは大きな転機になったと思います。

浅田恭子



友愛園にお世話になり早20年近くになります。介護の仕事は楽しい事ではありません。

辛い事も多く大変な仕事も多い分とてもやりがいのある仕事であると日々実感しています。

今現在私がこうして介護が出来るのも周りの同僚の支えがあつての事だと思つづく思います。これからもご迷惑をおかけすると思いますが宜しくお願いします。

本当にありがとうございます。

畠中扶美子

私たちも諸先輩たちから沢山教わる事が多くあります。些細な事ですが、衣類を洗濯するのも男性職員は洗剤がわからなかったりするもので教えてくださいます。子供さんがいる職員さんは相談もしているみたいでおかあちゃん的存在です。

沢山ある業務の中で、得意不得意あると思います。私たちはそういった事をなんでも相談し合える関係性を構築していきました。自分の事はかり考えず相手の立場になって考えよう、これは介護する上でご利用者に対してだけではなく、対職員（仲間）にも言える事だと思います。

畠中さん、浅田さん、塩見さん、岸谷さん、これからもよろしくお願ひします。



すずらん ご家族様より



「支える」ということ

私の机の中に一枚のCDがあります。古い8ミリフィルムを編集したもので、タイトルは「建彦君の小さきとき」と書いてあります。親戚の誰かが撮影してくれたのでしょう。小学校一年生頃の私と3歳ころの妹、近所の友達、それに若い母が映っています。内容は4つあります。上矢田の川で妹と一緒に釣りをしている場面、家の前の形原神社で、友達と相撲を取っている場面、正面に平和塔が見える本町を友達と歩いていく場面、そして家の前から小学校に通うとき、母に服装を直してもらっている場面。わずか5分に満たない短いフィルムですが、当時の街並みや、髪型、服装等、昭和30年当時の面影を見ることが出来ます。中でも若い母は、仕事着姿で私たち兄弟や友達をやさしく微笑みながら見つめてくれています。

それから65年余りが過ぎ、94歳になった母は、令和3年4月6日、大好きな自宅で大好きな家族に見守られながら、長い生涯を終えました。

コロナ禍の中でこのような最期を迎えられたのは、在宅での生活を支えていただいた、数多くの医療、介護関係者の皆様のご苦勞の賜物であり心より感謝いたします。

この原稿を書いている現在、東京ではオリンピックが開催されています。日本人選手の活躍に喝采を送る一方、東京では3800人を超える新規感染者が続出、全国の感染者数も初めて1万人を超えました。毎日100万人規模での「切り札」であるワクチン接種が進む中、コロナウイルス感染症が終息し、平穏な日常が一日も早く訪れることを願うばかりです。

「コロナ後」という声をよく聞きます。どのような社会を築いていけばいいのか。私は次のように思います。

そこに住まう地域の人々がそれぞれの立場で、母が我が子に対して注いでくれる、深い愛情をもって支え合うことが大切であると考えています。

大塚 建彦様より





感謝

すずらんの小早川所長とスタッフの皆さんには、ただ感謝の言葉しか見当たりません。

貴所には、父母共に在宅介護から始まり、母はグループホームにまでお世話になりました。母は活動家で台風の中でも近くのセブンイレブンまで歩いて買い物に行き途中で倒れているところを探してケアしてくれたり、財布がなくなったと半ば諦めていたのを掘こたつから拾い上げてくれたり、スタッフの方はまるで娘のように両親をケアしていただきました。私は、亀岡市でなく家族と東京に暮らしており、ままならぬ事が多い中すずらんさんには頭が上がりません。父は病で、亀岡病院で亡くなりましたが、母は最期まですずらんでお世話になり看取りまでして頂きました。グループホーム入所中は、毎月日頃の様子と写真を送って頂き、症状が手に取るように分かって助かりました。

コロナ禍面会もままならぬ状況で、最期は私、妻、孫にも面会を許してもらいまだ意識のあった時期だけに私共は非常に感謝しています。



オリンピックもいいが、地味で目立たない介護事業は普遍的で 且つ今後増々ニーズが増えることは間違いありません。私は民間の一個人に過ぎませんが、これらの事業を現場でやっている人達は、笑ってはいるものの大変な仕事だと思います。政府の人達ももっともこの事業にスポットを当てて、関係者の待遇を良くするように努めるべきかと思ひます。いずれ私も世話になるかも(笑)。

最後に、真にありがとうございました皆さんの御健勝を祈願します。

長尾 良司様より

『わたしのたからもの』



あんしんサポートハウス

介護員 松岡 寿子

私の宝物は、愛用の軽自動車の助手席に鎮座している大きなくまのぬいぐるみです。

我が家の三人の息子たちが自分たちの代わりにといつて、チャイルドシートに座らせ、シートベルトを締め、ホイッスルを肩から掛けさせてくれたのです。交通事故で怖い思いをしてから閉鎖した空間に一人であることが不安になり、エレベーターやトンネル、様々な医療検査などに支障をきたしていました。一人で運転する事も出来なくなりました。出かけることもままならず、時には息子たちが代わり合って助手席に乗ってくれる有様でした。

しかし、トンネルがしんどくなり、過呼吸になることもしばしばでした。

そんな時、このくまのぬいぐるみが登場したのです。「僕らが一緒に乗っているから大丈夫だから。安心して安全運転を心がけてね。」の一言に励まされ、少しずつ運転ができるようになりました。

いつも運転しながら、そっとぬいぐるみに触れ、息子たちの優しさに癒される毎日です。



ルーキーです!

ホームヘルプステーション
ヘルパー

藤井 麻由美



令和2年11月に入職
しました藤井です。准看護師としての経
験を活かし、利用者様と向き合ってい
ます。よろしくお願いいたします。

特別養護老人ホーム

看護師

岡本 美紀



4月入職の看護師
岡本美紀でございます。
早いもので入職して半年経ちました。
友愛園の第一印象はスタッフの皆様、ご
利用者様も桜の花のように満面の笑みで
私を迎えて下さり、とても嬉しかった事
です。各ユニットではまだご利用者様全
員が覚えられず迷子になる私を優しく支
えてくれて本当に感謝の気持ちで一杯で
す。

あんしんサポートハウス
宿直員

Y



入社して、1年余り
になります。
ご利用者の気持ちに寄り添って、友愛の
心を持って仕事に励みたいと思います。

特別養護老人ホーム
介護員

石田 晃基



今年の1月より特養館
どんぐりユニットで勤務してます石田と
申します。
入居者様が充実した生活を送れるように
支援していけたらと思っております。

特別養護老人ホーム

介護員

森川まゆみ



2階ひまわりどんぐり
ユニット、夜勤専従で勤務させていただ
いています。
森川まゆみです。
御利用者様が夜間安心して休んで頂け
るように努めてまいります。どうぞよろ
しくお願いいたします。

すずらん

介護員

片矢 綾



6月からお世話になっ
ています。
小規模多機能は初めてでなかなか慣れ
ないですけどもよろしくお願いいたします
します。

すずらん

介護支援専門員

小松 正典



年の多いルーキーです。
介護の仕事をして、45年経ちました。身
体はボロボロですが、この仕事が好きで
す。趣味は、めだかの飼育。

よろしくお願いいたします!

月別献金者 ご芳名

社会福祉法人友愛会のために用いてくださいと
尊い献金を寄せてくださった方々のご芳名を月
別に報告させていただきます。

令和2年4月から令和3年3月までにご厚情を
頂いた方でございます。(敬称略順不同)

令和2年4月

京都聖徒教会 前淵幸信 柳原和明

令和2年5月

京都聖徒教会

令和2年6月

安倍恵子 京都聖徒教会 西村 譲

令和2年7月

なでしこ美容室 京都聖徒教会 山根芳枝 安倍恵子

令和2年8月

京都聖徒教会 藤田抄子

令和2年9月

京都聖徒教会 高野あい子 蔭山彰子 京都復興教会

令和2年10月

安倍恵子 京都聖徒教会 村上幸三 山田勝造 山田幸子

令和2年11月

安倍恵子 京都聖徒教会 藤井ムツ子

令和2年12月

東良京子 桑瀬勝朗 古郝荘八 一木千鶴子 樋口久美子 永田真一・真由美
京都聖徒教会 安倍恵子 藤田抄子 丹波新生教会 今井恵一 松本正二
蔭山彰子 菅 恒敏・洋子 岩崎國宏・功子 恵産業(株)代表取締役 関田嗣雄
安部洋子 山根芳枝 岡部友子 佐々木初代 宅間恒子

令和3年1月

京都聖徒教会 安倍恵子 稲川はつを

令和3年2月

京都聖徒教会 安倍恵子 島本キリスト福音協会 野村君子 京都復興教会
竹内美知栄

令和3年3月

山本富美子 京都聖徒教会 安部洋子 安倍恵子 亀岡友愛園後援会

後援会会員名簿

社会福祉法人友愛会後援会の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

「友愛」の機関紙を発行して、後援会員の名簿を掲載し、ご報告に代えさせていただきます。

(令和3年11月現在 敬称略 順不同)

天野 洋	天野信子	伊藤 望	茨木福夫	今西儀夫	今西光恵	今村千登士
石橋かおり	植村良彰	王鞍静子	大西啓造	大西幸子	岡田淳子	
岡部友子	大木 悟	片岡広明	河原林優子	小畑 光	小畑幸代	小畑 義
金谷恵美子	上島滋之	菅 恒敏	菅 洋子	亀岡聖書バプテスト教会	木村丈司	
京都ハリストス正教会婦人会	神戸照代	小林 久	阪口登詩江	佐々木初代		
澤野井慶子	清水 潔	清水宏子	清水敬子	新開千恵子	千足創三	
千足和子	高畑恵子	田中 顕	北村ちづ	田中範子	玉村光子	遠山ミチコ
長尾研司	中川紀子	永田真一	永田真由美	中西俊弘	中村いく	仲村喜雄
村上 宏	村上すみ子	丹羽はるみ	韓 守信	人見光雄	樋口久美子	平野ふじ江
廣澤悦子	福嶋明美	藤井ムツ子	藤田抄子	藤野孝雄	藤野裕子	前淵博明
前淵美佐子	松岡千栄子	松本正二	水谷明子	三村幾久子	山内敏正	村上ヨシコ
森 美由起	安福美代子	山下ヨシヲ	山田節夫	山田絢子	山本富美子	山本貴美
カ石明子	リンカンリチャード・ベル節子	青木 薫	新 久雄	石田晃基	石野多嘉子	
伊藤真由美	岩本健二	穎川英宜	大下美和	大石和代	蔭山佐代子	川勝沙紀
川坂由佳	川村健司	桐原康介	倉石賢治	栗田一平	五代喜代美	小早川広恵
小森智仁	小森優香	小林恵子	佐井儀男	坂本直子	櫻井ゆう子	澤田尚樹
塩見和江	柴田一馬	清水裕子	高坂洋介	高坂晶子	津崎順也	寺嶋浩子
富井 香	内藤久美子	長野真紀	中澤妙子	中村美恵	鳴瀬慎太郎	能勢幸浩
野本誠喜	畑 昌平	服部素子	平八重朝雪	廣瀬竜介	福庄隆樹	福田 朝
藤井 操	堀越千鶴子	前淵幸信	前淵 功	前淵 豊	松尾知恵子	松田裕子
松本理恵	山内紀子	山田美香	吉田美穂			